

神戸の風色

KOBE ● FUSHOKU

堀内初太郎 NO・37







*A Happy
New Year*

成熟の時

流れる女の詩は^{うた}

光の微笑

エレガントな誘い

はる
新春の宴



クチュール&プティック

ウインザー

山田 易紗子

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目
さんプラザ2F TEL (078) 331-7952



¥ 58,000

New Year's Fantasy

maxim

KOBE TOR-ROAD TEL. 078-331-6711~3

撮影協力/大丸神戸店

A HAPPY NEW YEAR

輝やかなしい初春の訪れです
新しい年も美しく夢のある真珠の数々を
生み出していきたいと思ひます
本年もよろしくお願ひ申し上げます



WHOLESALE & EXPORTER of Cultured Pearls.

KINOSHITA
PEARLS
CO., LTD.

Order Salon

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL.(078)221-3170

10:00a.m.~6:00p.m. 木曜日定休

(新年は4日からオープンいたします)



A HAPPY NEW YEAR

1983年 —— 自分をみつめて、本物をみつめて…、より美しくなってください。



真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

ムラタ

さんちかレディスタウン / 神戸市中央区三宮町1丁目10番1号 ☎(078)391-3886 本社 / 神戸市中央区元町通6丁目7番8号 ☎(078)341-8041(代)

神戸名物

さかづきまんじゅう

酒月万寿

灘五郷、
それは神戸のほころ
酒どころ。
その吟味された清酒、
酒粕を使った
ふくよかな香りは
昔なつかしく、
心にひろがります

せいろ 9個入 500円

1個50円 10個500円



神戸 月万 堂

ミニイゴフル

本社・神戸市中央区元町通3丁目3-10 ☎(078)321-5555



目次作品 / 田中 薫「7つの赤い箱」 1978 アクリル 100×40cm
写真提供 / 大阪・現代彫刻センター

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

新年号目次 ● 1983・No.261

表紙 / 小磯良平

セカンドカバー / スケッチブックより (49) ヨーロッパを描く / 西村 功

9 第7回神戸文学賞・神戸女流文学賞受賞者

13 ある集い / 神戸フィルハーモニック

15 コウベスナップ

16 エトランゼの輪郭 (11) 鴨居 玲

18 神戸の風色 (37) 堀内初太郎

29 私の意見 / 石野信一

31 随想 / 田村 隆・大江千里 / 毛房育子

34 エッセイ / 作品の舞台 (1) / 吉村由美

35 ある集いその足あと / 川西正明

36 詩心象 (7) 詩・安水穂和 / 絵・石阪春生

38 エッセイ・ペンのおうそと (9) 三枝和子 / 絵・元永定正

40 インタビュー / 司馬遼太郎

45 地域文化論 / 「住まう」考 / 磯 千秋

47 第7回神戸文学賞・神戸女流文学賞発表

52 さわやか対談 / 坂井時忠・伊藤ルミ

56 経済ポケットジャーナル

57 話題のひろば ① メニューイン

58 キャンペーン / 21世紀への展望を開くファッションタウン

64 話題のひろば ② 全国タウン誌会議

③ 神戸デザイン会議

66 特集 / 神戸とナチュラルライフ

① 座談会 / 美味しい自然は地球を救う

② ミニルポ / 美味しい自然にアタック

③ アンケート / 私のベストコンディション

④ ルポルタージュ / ナチュラル・ハウス神戸店 / 嘉納純子

76 KOBE FASHION SPOT

84 コウベ・ナウ ① 田辺聖子出版記念パーティ

② 美術家野球大会

117 コーヒーブレイク

118 動物園飼育日記 (206) 亀井一成

123 ノコちゃんの華麗なる食べある記 / 小山乃里子

(97) 普茶寮 (98) 都わすれ

126 神戸JC25周年記念座談会

129 こんにちは・JCです

134 神戸を福祉の町に (109) 橋本 明

136 兵庫界隈記 (21)

138 神戸の集いから

139 KFSニュース

140 ファッション・レポート / 田中千代モード50年の歩み

142 NEUE MODE MÄRCHEN / 篠原順子

144 KOBE MODERN CULTURE

146 ふたたびプロフェッサーPの研究室 / 岡田 淳

150 孟さんの風の吹くまま… (13) 高橋 孟

152 ポケットジャーナル

155 ぴっといん

156 神戸百店会だより

158 連載小説 / 花いちもんめ / 新 光江 / 絵・辻 司

163 トラベル・コーナー / トーク&トーク

164 編集後記

177 ギャラリーマップ

178 北野町ガイドマップ

180 ごんにちわなイス・ビーブル

182 海船港——マオ・海を行く

カメラ / 米田定蔵・後藤 孝・橋本英男・中村昇治・速水 亨・

坂上正治・プレゼンツ・山村雅彦・太田順一

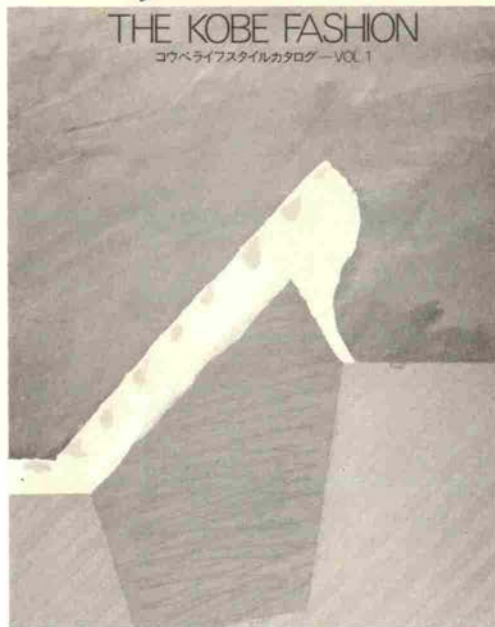
THE KOBE FASHION

神戸の風合い、神戸のファッションがこの一冊に。

神戸ブランドの良さを確かめください。

THE KOBE FASHION

コウベライフスタイルカタログVOL.1



ファッションステージ神戸を集大成
あなたの暮らしが神戸風に。

定価700円(送料300円)

編集●月刊神戸っ子

発行●コミュニティサービス(株) 〒650 神戸市中央区江戸町100高砂ビル5F

☎078-392-0200

お問い合わせ・お申し込みは 上記コミュニティサービスまでお願いします。

★シニカルなユーモア、洒落たエッセンス!!★ブロードウェイ・ミュージカル異色の作品!!★オール女性出演者によるオール男役、というユニークな演出!!★昨年6月、東京銀座博品館劇場で翻訳初演され、世間の話題と絶賛を集めた新形式ミュージカルの関西初公演!!

神戸文化ホール開館
10周年記念公演

The Club
ブロードウェイ ミュージカル

ザ・クラブ



〈出演者〉もと宝塚トップスター・真帆志ぶき、SKDトップスター・千羽ちどり、クラシック出身の実力派シャランソン歌手・瀬間千恵、宝塚および「ステージ」出身の混血歌手・立川麗子(真理)も、日劇ダンシングチームのトップダンサー・田井ひろみたちの華やかな競演!!

作・イヴ・メリアム
訳・青井陽治
来日演出・振付
・クーキー・ハーラン
音楽監督・内藤法美

2月10日(木)7時開演
2月11日(金・祝)2時開演
神戸文化ホール(中ホール)
入場料・1階¥3,000 2階¥2,500
主要ブレイガイドで前売券発売中!

・主催・

神戸市民文化振興財団



神戸文化ホール

078(251)1919

078(351)3535

POETIC SCENE IN KOBE

January



石栗 早苗さん(垂水区在住)

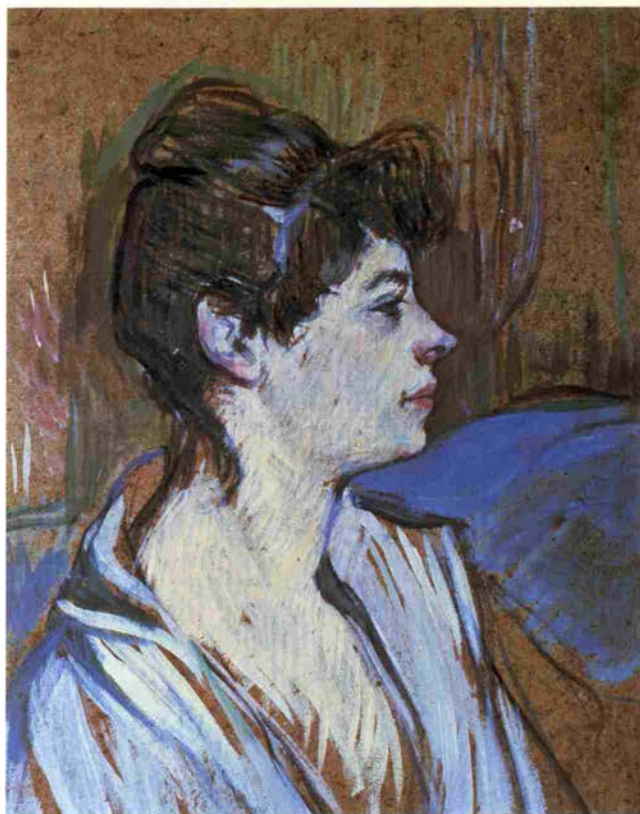
鮮やかな朱赤の一重仕立のオーバーコートがよくお似合い。フォックスの衿が新春の装いにふさわしく豪華です。(コートは他にブラウン、モスグリーン、マスタード、ベージュのお色違いがございます。)

¥98,000

POETIQUE

KOBE
まさ

- 神戸 さんプラザ店
さんちか店
須磨パティオ店
- 大阪 千里阪急地下街店
阪急ファイブ
西武高槻店
泉北パンジョ店
- 宝塚 阪急ファミリーストア店
- 大津 西武大津SC店



「マルセル」1894年作

30

読賣新聞
大阪発刊30周年

ロートレック展

と き：58年2月26日(土)～3月27
日(日)※月曜日は休館
3月21日(祝)は開館

ところ：京都市美術館(岡崎公園)

主 催：京都市・読売新聞大阪本
社・読売テレビ放送

後 援：外務省・文化庁・フラン
ス大使館・近畿各府県六
市教育委員会

京都で盗難にあった「マルセル」
が、再び京都に帰ってきた。トゥ
ールーズ＝ロートレック(1864～
1901)は、世紀末のパリに生き、
時を惜しむように黙々と描き続け
た。20世紀という機械文明の到来
に背を向けるようにして若くして
世を去った。36才。

傷ついた人々を好んで描いたロ
ートレックの絵は、愛に溢れ、真
実というものがいかに感動的で、
同時に残酷なものであるかを訴え
る。新春におくる待望の美術展。

入場料：一般800円(650円)、高大生
600円(450円)、小中生300円
(200円)

※カッコ内前売り、20
人以上の団体料金。

あのマルセルふたたび！

読賣新聞大阪本社

〒530大阪市北区野崎町8—10 ☎06(361)1111

☆私の意見

着実な努力により 活力ある神戸に

石野信一

〈神戸商工会議所会頭〉



現在、神戸では、官民一体となったファッション都市・コンベンション都市づくりの構想が進められています。一方、神戸沖空港案をどうするかという問題もあります。年頭にあって、神戸の抱えているこれら諸計画の進め方について、私なりの考えを申し述べたいと思います。価値観の変化、多様化の時代を迎えて、いまやファッションという概念はあらゆる産業分野で考慮されなければならぬところに来ていると思います。経済と文化を切り離す従来の経済観念では、消費者の新しいニーズを先取りすることは出来ません。生活文化の視点に立った「文化的な経済」という新しい発想が望まれるわけです。

次にコンベンション都市の問題ですが、コンベンションが米国で盛んになった関係から、とかく外国からの大きな会議や見本市の誘致に重点を置いて考えられ勝ちです。確かに、国際的な視野に立つことは大切ですが、国内のコンベンション、それはあまり大きなものではないかも知れませんが、それをより多く誘致すべきではないでしょうか。ホテルの絶対数をみても、神戸はまだ成熟段階とはいえません。観光資源の開発も必要です。また全体の会議慣れも先決だと思います。コンベンション都市構想は、スタートしたばかりなのです。

緒についたばかり、という意味では空港問題も同様です。空港が神戸経済の活性化に不可欠である、ということとは論をまちませんが、今後解決しなければならない問題が山積しています。早い話が地元の反対が強くては、計画を進めることが難しいでしょう。長期的には必ず実現する、という決意をもって、じつくりと腰を据えた着実な努力が肝要です。

昨年、会頭就任の折の所信表明でも触れました通り、商工会議所の本来の仕事は、神戸の商工業、とりわけ中小・中堅企業のため、互いに協力し助け合う場となることだ、と思います。この基本を踏まえて、各部会や委員会では自由闊達な意見を交わすとともに、内外の膨大な情報に眩惑されることなく、正しい分析と評価の出来る情報処理能力を養わねばなりません。景気の先行きは決して楽観を許しませんが、会員相互の結束はもとより、行政・各地商工会議所等とも緊密な関係を保ちながら、活力ある神戸をつくり上げたいと思っています。〈談〉



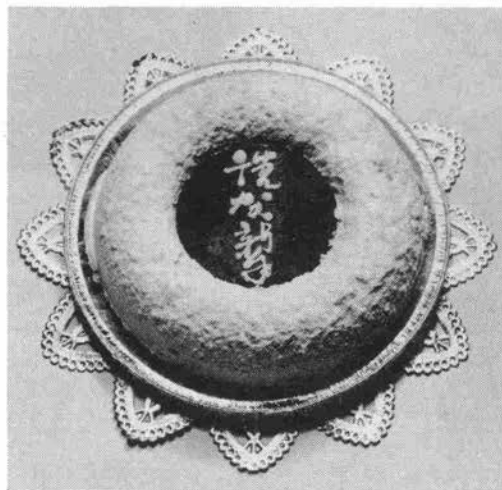
技術に贅を尽しフアッションを
常に美しく——ニシジマ

- 型くずれの防止 ●素材感の回復 ●カルテの作成
- お客さまのお好みに合せた仕上 ●ファッションクリーニングの最新情報の提供

神戸市中央区三宮町2丁目10-7
ヒューストン101 ☎ (078) 332-2440

新年賀儀

本年もよろしくお願いします



北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市中央区熊内町1-8 TEL 221-1164

随想



カット下村 宏/エッチング・サーカス No. 106

眼について

中村 隆^{△作家▽}



見えぬ眼の方の眼鏡の玉も拭く
茶 城

これは日野草城の句である。何かの本でこの句に初めて出会ったとき、痛みを伴ったある感動が走った。草城も片眼が見えなかったに違いないという確信がもてた。正常な視力を持った人には、何気なく見過ごしてしまう一句であっても、片眼が不自由な者には、心を通い合うリアリズムの詩の世界だ。この句には、作者の悲しみや、諦めの心が表面に現われているが、開き直った現実への挑戦の姿

勢も感じられ、そのように追い詰められた状態を静かに観察しているもう一つの非情な眼が言葉の向こうに見えて、まことに怖い一旬だともいえよう。

私はもう六年ほど前から、右眼が白内障のため失明しており、左眼も四年前から同じ病いで、視力が覚つがなく、近く手術を受ける。右眼が見えなくなった時は、距離感がつかめずにいろいろ失敗を繰り返したが、やがてこの状態にも馴れ、左眼が悪くなるまで、さほど不自由も感じなくなっていた。左眼が悪くなるにつれて、老眼もやっけてきて、今は全くお手上げである。「眼は心の鏡」とか「目は口ほどにものをいう」とか言われるが、事実、視野が狭まると思考も同じように狭まってくるものだ。例えば詩集を読む場合でも、その

一行、一行を老眼鏡と虫メガネを併用して辿っていくが、その一行はよく理解出来ても、読み了って全体がよく捉え難い。正常な眼で読む場合、同じように一行、一行に眼を走らしていても、見ていない他の行も無意識に視野に入っていて、読み了って全体がはっきり掴むことが出来る。「視野の広い人」という言葉の意味がよく分る。不必要と思われる見ていない部分の重要さを改めて痛感する。文字が読めなくなつて、もう一つ感じたことは、私たちがいかに言語に頼っているかということだ。現在、活字を離れて生活することは、殆ど不可能に近い。思想も経済も文字の上に築かれた楼閣のようなものである。記憶力は年とともに弱くなって、如何ともし難いが、せめて活字を離れて自分の頭でものを考えるくせをつけたいと思う。

このような呑気なことを考えていられるのも、私の眼は手術によってある程度まで回復すると思うからで、事故や縁内障で失明された方には、まことに不謹慎な話で申しわけないが、画家のモネが白内障で手術を受けたときのこと。その事情を詩人のヴァレリーが「手術刀が彼の眼から不透明になった水晶体を抽出する瞬間、彼にたぐいまれな、冷徹な美しさをもった青色が現われるのを感じた」

と書いている。果たしてそのような純粹に内的な現象が、私自身に現われるかどうか分らないが、少なくとも六年間、日の目を見ず蔵いこまれてきた水晶体が、まず最初に何を捉えるか。他人事のように興味がある。草城の句のように冷静にその瞬間を待ち受けたい。

KOBE

大江 千里

ハシゲ・ソングライター

ラボムベールを出たのは、そう、たしか今から15分前。薄ら宵闇が、そおしとしのびよってくるころのこと。たまにしか観れない2本立ての映画にでも行こうか。こんなたまの休日だから、思いっきり普段のうつぶんを晴らすんだ。そんなこと、ぼんやり考えながら口にした、ラボムベールのブディングが、心なしかかすかの胃腑をじつとりと汗ばませて……。

腰骨で、きつく結んだダウンを両手の手のひらでパタパタさせながら、断続的にこの街の反射鏡にうつる自分を見えないような素振り、そつと格好つけてみせたりしてね。

今日も、あんまりそっけなく、味の素のきれたコンソメスープみたく。それでいて、ちよつと気位の高いネオンのアクセサリーをちらちらさせる街、神戸に、僕は最

大限気どつて背中を向ける。

仕事が忙しくて逢えないなんて……、ちよつびりのど元があつかりたりするので、今日は久し振りの逢瀬に体中の血を逆流させながら、いさんでやってきたのに、今日も又冷たかつたね、彼女のた。帰りの電車はいつも、六甲あたりまでの長いイルミネーションを、弄ぶようにくぐりぬけます。今度逢いにくる時は、別の恋人と来たりなんかして。彼女それ



ライブハウスで人気上昇中の大江千里

でも案外、「ふふっ」なんて鼻先で器用に笑つたりするのかな。

PM2:00に垣間見た、ローズガーデンの斜め向かいのお店。まるで、「白いドレスの女」に出てくるような、魔性を身体いっぱいに漂わせた、「マティ」みたいな女がきつと似合いそう。

ハンター坂をのぼりつめると、鼻の奥までつんとする冷気にのせて、どこか遠くでミシンを踏む音が、一定のリズムとなって屋すぎ

の街を港へとくだつていって、異人館倶楽部向かいの公衆電話では、この街から遠く離れた彼に、週一回のコールをする女の子を見ような……。

昔よく、角のアメリカンスタイルのお店でバイトしてた、栗色の長い髪の女の子にほの字だった同じゼミの陸サーファー、神戸での色恋沙汰は、みんな悲しみ模様なんて言つたけど、僕はそうは思わないけどなあ。つまり僕なんて、チキンジョージで演奏してる憧がれのバンドガールに、クリスマスがまぢきれなくて、差し入れ理由に押しかけてる気分が大いにありだつたりで、あの界隈に足を踏み入れたりするともう、体中の皮膚がびんと張つて、おもわずその日巡りあう全ての神戸GALに、ぽおっとなつちやいそうだけどなあ。

若屋川をすぎると、X'masにタイムスリップしたような、ネオロマンティックに身を包んだ夙川のサイドが眼をよこぎって、あと何分かで休日の夜はギアをハイに入れることでしよう。部屋に帰ると、神戸ナンバーの車を窓越しに見ながら、「夙川パーキングナイト」なんて、自分の歌を歌つたりして。

★大江千里は四月レコードデビューの関学三回生。ポップな音楽が、神戸からの風を巻き起しそ。一月九日チキンジョージ出演。

神戸住吉(村)で開く 小さな文化サロン

毛房 育子

△ギャラリー&サロン住吉倶楽部オーナー▽

昭和55年12月、ギャラリー住吉倶楽部オープン折、新聞社・雑誌社からインタビューを受け、私はこう話したことを記憶しています——私たち、何の肩書きも無い夫婦ですが、自分たちの生き方をより確かなものにするために開いたスペース。たんなる作品の発表の場だけに終わるのでは無く、もっと多くの方との交わりを、そして、その交わりが文化的な交わりになる様にといい理想をもって出発いたしました。

そんな想いが通じ、グラフィックデザイナーの大御所・粟津潔版画展の折には、氏が東京からお見え下さり、お客様と卓を囲んでデザイン談義。氏は大勢の前で一方的に話すことはあっても、こういう形式の集いははじめてで、身近に對話でき、とても良い時間をすごせたと喜んで下さいました。一方、氏のお話を聞かれた方々も、住吉倶楽部を訪れた永六輔氏。中央が筆者

氏の仕事に対する生き方の厳しさに身近に触れ、身のひきしめる感動を味わっていただきました。

その後、泉茂版画展の折には、泉茂vs元永定正氏の対談を、お酒をいただきながら夜遅くまでお聞きしました。「神戸の住吉村でこんな集いがあるのはとても良いことだ。外国の片田舎でこういう文化的な小さな集まりが数多く開かれていくからぜひとも続けるように」とと外国での生活が長かった画家・泉氏のお言葉。話し足りなくて、泉茂・元永定正二人展の折にPARTIIが実現。現代美術に関心のある方はもちろん主婦の方にも参加下さいました。本やテレビ・ラジオで間接的に文化のいぶきを感じ取るしかない子育て中の主婦にとって、文化人と身近に對話できたことは大きな収穫でした。

〇〇後援、××主催というバックアップもなく、一市民のギャラリーの催す地味な活動は、文化は一部の人だけにおもねるものではなく、私たちも文化の匂いを嗅ぎたいと願う私たちの友人へ、そのまた友人へ……という風に広まって行つたのです。

そして、一昨年の11月には京都の室が原でお百姓をしながら絵本作家の仕事をなさっておられる田島征彦氏の版画展を催しました。その時、御本人が「絵本の周りか

ら」というテーマでお話し下さいましたが、お話が始まって少し時間のすぎた頃、入口近くに、かの有名な灰谷健次郎氏が立っておられるではありませんか。突然のゲストを迎え、皆さまにご紹介申し上げますと灰谷氏曰く、田島さんが神戸にいられているのに出迎えないとは失礼なので、礼を正してお出迎えに淡路島からお見え下さったとのこと。お二人方のお交際の在り方に一同感激、予期せぬゲストを迎え、後はお二人方の対談と相成った次第でございます。

最後に、つい最近、恋ひ焦がれておりました方、永六輔氏がギャラリーに遊びにきて下さいました。当画廊オープン時のインタビューで、お招きたい方は？の質問に「永六輔さん」と答え、まさか望みが叶えられるなんて想像だにしかかったことですが、実現されたのです。記念すべき11月12日。

夫婦で催す小さな不定期の集いに支援して下さい方もでき、輪は広まりつつあることはとてもうれしいことです。私たちの我がままを応援して下さい諸先生に感謝しますと同時に、細く永く続けてまいりたく願っております故、今後ともご支援下さいますようお願いいたします。

★住吉倶楽部／東灘区住吉町中島414-2「モシニヤトリK」203号／電話 841-9839



●作品のプロムナード①

海岸通の街角から

「枯草の根」の舞台

吉村 由美

(随筆家)

しずかな秋雨の日々が続いていった。冷たさとやさしさの雨脚が、街の風景をかすかな霧のなかにおおって、ひとつの季節は少しずつ遠ざかる。セピア色に散る並木路の枯葉、やがて街は驕りをひそめた、冬の静寂にうつろうてゆくのであろう。

海岸通へむかう京町筋は洗練された美しさをもつ街路である。グレイの建物のあいだに、レンガ色のビルが点在し、整然としきつめられた石畳の歩道に、銀色の街燈が等間隔にたつ。風の流れる日には潮のおいをはこび、海からの風のさやめきを感じさせる。昨年の秋から冬にかけて、街にはクレイダーマンとかピエール・ポルトのピアノが、季節の旋律を奏でて

いた。今年はフリオ・イグレスィアの歌声が、神戸の街角に流れる。男性の優しさと、抑制のある知性のなかに秘めた強靱さ、彼はその歌のかなたに、人々の心の詩をつつもうとするのであろうか。たとえば彼自身の作詞、ラファエル・フェロ作曲の「夜明け前の出来事」というオリジナル・ナンバーなど、さりげなく歌うささめきのなかにきわめて魅惑的な暖かさで、人々の心をつつみこんでゆくのだ。

清烈さを秘めた男性の知性と優しさこそ、まさしく男の美学なのだが、京町筋をオリエンタルホテルのあたりまで歩きながら、陳舜臣氏の作品「枯草の根」で登場してくる陶展文のことを思った。

——うつくしい心の触れ合い、それが拡大されて人類愛に達するのだらう。——と書く陳舜臣氏の思惟は、そのまま陶展文という秀逸な人物像として、作品のなかにみごとに描き出されている。

作品「枯草の根」は第七回江戸川乱歩賞の受賞作であり、陳舜臣氏

に作家的出発を上げさせた処女作であった。格調のある文体のなかに、豊かな人間性の暖

さを感じさせる、陶展文という人物像をうきたたせながら、作品の舞台は神戸の海岸通から展開してゆく。たとえば「広い京町筋は、冬の陽を浴びて、まっすぐに港にむかつてのびていた。人通りはあまりなかった。つめたい風が頬にふれる。東京銀行のままで通りを横切り、そして海岸通を右に折れた。」というように、あたかもカメラのアングルが移動するかのごとく、神戸の海岸通を、メリケン波止場を、そしてグレーの建物に緑青のグリンの屋根が美しい市立博物館(旧東京銀行)から、トリアロードのあたりへと、作品の舞台は静かな広がりを見せて書きすめられるのだ。

神戸に生まれ約十年海岸通に住んだ陳舜臣氏にとってこの場所は、まさしく青春の日の心にある風景であるにちがいない。それは氏の祖国中国によせる思いとともに、忘れ得ざる「いとおしく」愛すべき街として、作品の風景を、淡彩のスケッチのように描きだすのである。今日もまた、京町筋から海岸通へ、そして波止場まで冬の静けさのなかを私は歩いてゆく。海からの風が、人生の時の厳しさとやさしさを告げるかのように、風景の間をひとつの旋律とともに、さやめきながら流れてゆくのだ。



ある集い・その足あと

神戸フィルハーモニック

川西 正明

△神戸フィルハーモニックインスペクター・ホルーン奏者▽

神戸市民のオーケストラとして

発足結団された神戸フィルハーモニックは、今年の6月に満5歳を迎えます。しかしオーケストラという「生き物」の中では、まだまだ子供です。ちなみに京響は27歳大阪フィルは36歳。日本の最高齢はN響の57歳。東ドイツのドレスデン国立歌劇場管弦楽団は、一五四八年生まれといえますから、神戸フィルの幼さから比べたら、仙人クラスですね。

しかし、5歳という年齢にもかかわらず、神戸フィルは充実した年月を過ごしてきました。とくに一九八一年に開催されたポートピアの一環行事として、数々の演奏

活動を繰り広げました。「国際都市コウベらしいオーケストラ」、

「素晴らしいヴォリューム」等、外国のお客様からも喜んでいただきました。またポートピアを記念して、神戸出身の作曲家、平吉毅州（ひらよし・たけくに）氏による『海のある風景』を委嘱作品として初演しました。この曲はその後大阪フィル、東京都響で採り上げられましたが、神戸フィル以上の演奏はまだ無いようです。

メンバーは75名。主婦・学生・会社員・教師・会社役員等、いろいろな職業の方がおられますが、結団当初より全員、オーデিশョンによる合格者ばかりで、これまでのいわゆる「アマチュア・オーケストラ」とはかなり趣きを異にしています。メンバーの実力が一定しているの、曲目・プログラムミングも趣向をこらすことができます。ファリヤの『三角帽子』、ストラヴィンスキーの『火の鳥』など、アマ・オケが今まで到底成し得なかった曲をレパートリーに入れました。

神戸フィルは現在シンフォニー・コンサートに主力を置いていま

すが、将来はオペラ・バレエ・録音のジャンルにもその活動の場を広げて行きたいと思っています。

国際的な話題をここでひとつ。

神戸フィルのステージをご覧になって、「アア？」と思われたでしょう？舞台下手バイオリンのパートに、金髪で、ひとときわ長身の男性がおられますが、この男性は六甲のドイツ学院の教師をしておられる、エバーハルト・ユンカーさんです。ユンカーさんは西ドイツのシュトゥットガルトの出身で、小さいころからバイオリンを習われていました。職業音楽家になりたかったそうですが、父親の反対にあい、プロとして生きることは断念されたそうです。ユンカーさんは今でも、その時のことが残念でたまらないと言っておられます。ユンカーさんを見て「キヤ、ステキ！」と叫んではなりませんよ。女性ファンの皆さん。ユンカーさんは可愛らしい奥様がおられますよ。残念でした。

神戸フィルでは、ユンカーさんのように外国人の方の入団もお待ちしております。そして国際色豊かなオーケストラ、神戸市民とともに歩むオーケストラとして、皆さんに喜んでいただくよう努力してまいりますので、よろしくご指導下さいませようお願いします。

■お問合せ／神戸文化ホール内
078-3551135



第10回楽の会コンツェルトとアリアの夕べより
(11月芦屋ルナホールにて)